

目次

はしがき ..... 1

第一章 家庭科の理念の展開—民主主義と問題解決の教科— ..... 7

一 家庭科は新しい教科 ..... 二 デューイの教育論

三 家庭科の目標の展開 ..... 四 技術化と人間化の調和を

[注]

第二章 家庭科の存在感の推移—時代への適応と人間発見の教科— ..... 31

一 家庭科の存在感 ..... 二 厳しい生存条件と家庭科の切実さ

三 生活の変容と家庭科のあいまい化 ..... 四 新しい時代と家庭科の主題

[注]

第三章 「男が家庭科を？」と思う人に—「男子厨房に入らず」は半分嘘だった— ..... 49

一 家庭科Ⅱ女という思いこみ ..... 二 近代教育以前の家事と家事観

三 家事を大切にしたりした男たち ..... 四 タブーは明治中期から

五 「昔から」からの脱出を ..... [注]

目次

第四章 買えばすむものをなぜ作るのか―物作りとトータルな成長―……………73

- 一 素朴な疑問
- 二 物作りと成長

- 三 物作りの構造と意義
- 四 豊かな時代と物作り

- 五 物作りの楽しさ

第五章 教科は役に立つだけでよいか―驚き・楽しさと人間の再発見―……………95

- 一 実用志向と家庭科
- 二 教科の両義性

- 三 家庭科の非実用性
- 四 二元論の克服を

〔注〕

第六章 家庭科にとって文化とは―文化を読みとる文化力―……………117

- 一 体系的文化に欠ける家庭科
- 二 グローバルな知と教育

- 三 ローカルな知と教育
- 四 家庭科と生活力の標準

- 五 家庭科を担う知

第七章 家庭にどうこだわるか―場を創りつつ生きる力―……………135

- 一 場の教科
- 二 苦手な家族・家庭

- 三 場のとらえにくさ
- 四 場をなして生きる力を

〔注〕

第八章 生活主体論の展望―決定論と解釈と探求の姿勢―……………153

一 生活論の意義と課題……………二 構造としての生活と主体性

三 決定論・解釈・探求の姿勢……………四 生活の行為論

〔注〕

第九章 「総合的な学習」へのスタンス―家庭科に惹かれるひとりとして―……………177

一 「総合的な学習」ととまどい……………二 「総合的な学習」と地域の活性化

三 「総合」の諸タイプ……………四 「総合的な学習」へのスタンス

〔注〕

第十章 生涯学習論の枠組み―生活と人生に自由を―……………199

一 生涯学習の理念……………二 生活の社会化と矛盾・不安

三 生涯学習の主題……………四 自由をとり戻す生涯学習

〔注〕

参考文献……………219

あとがき……………225